B0027-2 適合規格:厚生労働省 墜落制止用器具の規格
種　　類:フルハーネス型墜落制止用器具

モノタロウ

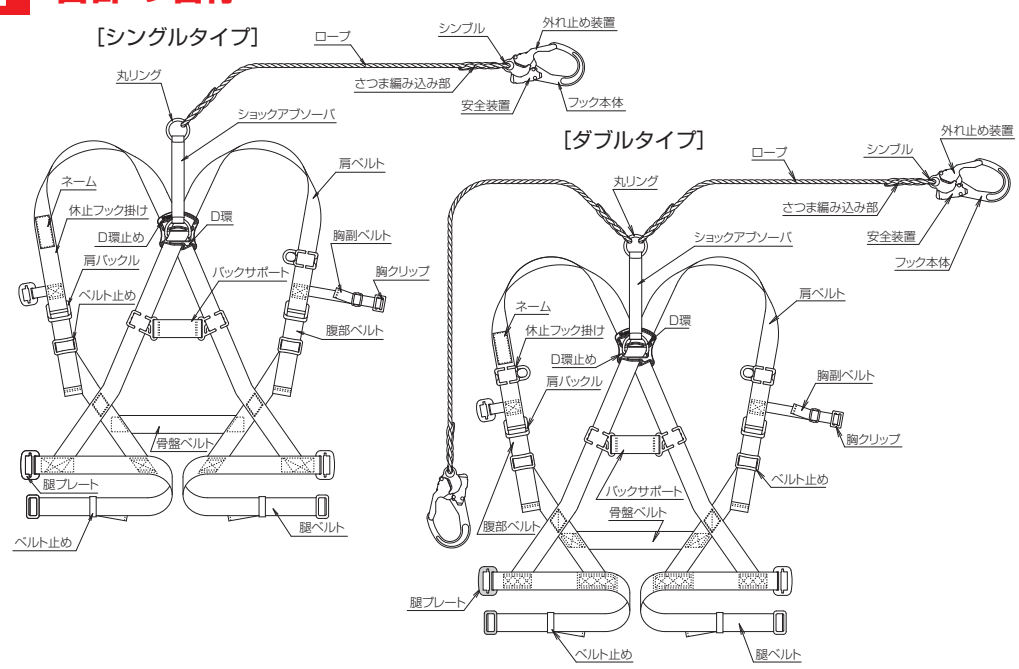
フルハーネス型墜落制止用器具

取 扱 説 明 書

要保存 必ずお読みください。

この度は、フルハーネス型墜落制止用器具をお買い上げいただきましてありがとうございます。この製品は建設現場・工場などの高所作業で作業者の墜落を制止するためにお使いいただく製品です。ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容をご理解ください。特に⚠危険・⚠警告・⚠注意の項目は、事故を未然に防ぐため厳守してください。あわせてこの取扱説明書は大切に保管していただき、紛失された場合は当社へご請求ください。
※併用するS-スライド･ロープチャック･安全ブロック(リトラクタ)・親綱等の取扱説明書も必ずお読みください。

1 各部の名称（図は一例を示す）



落下距離・ランヤード長一覧 ※墜落制止用器具の規格に基づく

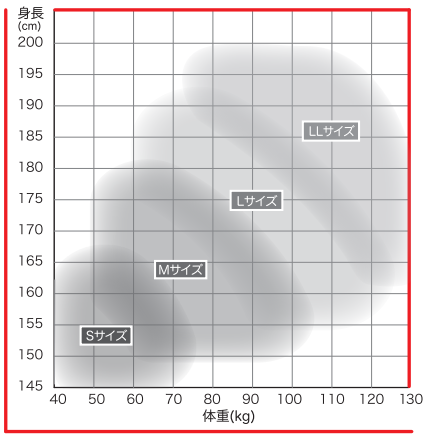
品名	落下距離(※1)	自由落下距離(※1)	ランヤード長	使用可能質量(※2)
フルハーネス型用ランヤード[ロープ式]	4.2m	2.3m	1.7m	100kg以下

※1 自由落下距離・落下距離については [5 使用方法](2) 参照　　※2 使用可能質量=装備品+作業者体重

2 使用条件

⚠警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

(1)墜落制止以外の目的で使用しない。
(2)通常作業が可能な温度範囲（目安として−10℃〜+50℃）で使用する。
(3)使用ランヤードの表示にて使用可能質量(体重+装備品)を確認し、その質量に見合ったフルハーネス型製品(製品ネームにて使用可能質量表示)を使用する。
(4)右記グラフを参照し、適切なサイズを使用する。



⚠注意 安全にお使いいただくためにお守りください

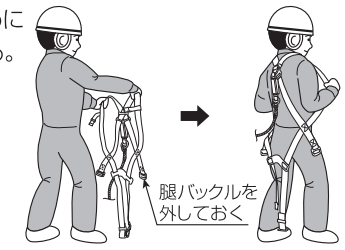
(1)U字つり・宙つりなど体重をかける作業には使用しない。

3 使用前点検

(1)毎回使用前に取扱説明書をよく読み、正しい使用方法を確認する。
(2)毎回使用前に必ず [8 点検・廃棄] の内容に従って各部の点検を行う。
(3)ランヤードについても(2)と同様に点検を行う。
(4)新しい製品を使用する前には、使用開始年月ラベル([9 交換の目安] 参照)に、使用を開始した年月を必ず記入する。

4 装着方法 ※図は一例を示す

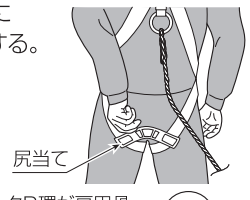
①一度、腿バックルを外した後、肩ベルトに腕を通すようにして装着する。



②胸副ベルトの胸クリップを差し込む。たるみがないよう（胸が苦しくない程度）に胸副ベルトの長さを調節する。

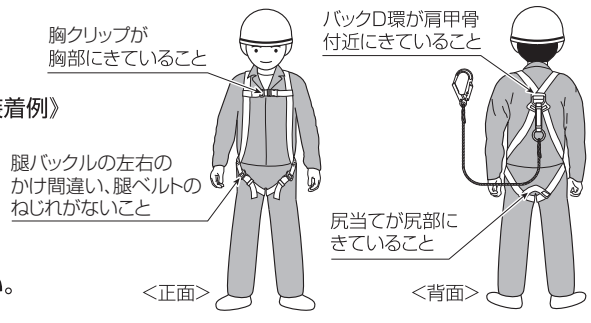
③腿部に腿ベルトを通した後、再び、腿バックルを装着し、身体全体にたるみがでないように腿バックルで腿ベルトの長さを調節する。

④尻当てが正しい位置にきていることを確認する。



⑤装着後に、胸副ベルト・バックD環・尻当ての位置を確認する。

《正しい装着例》

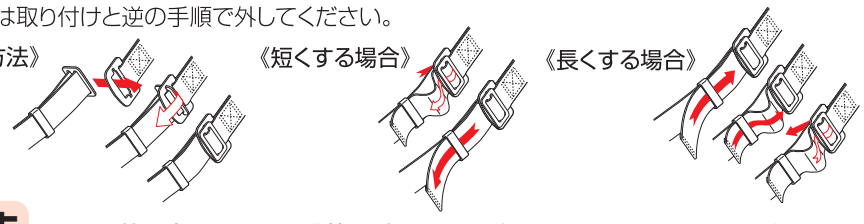


※肩・腿ベルトはたるみがなく、かつ、締め過ぎないように調節してください。

胸クリップ及び腿バックルの挿入･操作方法

※外す際は取り付けと逆の手順で外してください。

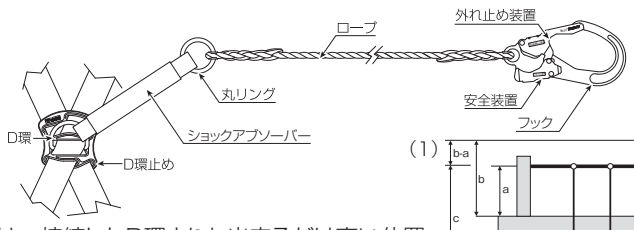
《着脱方法》　《短くする場合》　《長くする場合》



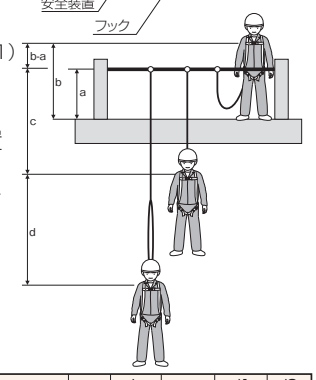
⚠警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

(1)フルハーネスは正しい方法で装着し、胸クリップを確実に装着し、胸副ベルト・肩ベルト・腿ベルトの長さにたるみがなく、かつ、締め過ぎないように調節する。誤った装着・調節は、墜落制止時に抜け落ちたり、身体が圧迫される恐れがある。
(2)装着時に各ベルトが、ねじれないように注意する。ねじれた状態で装着すると身体が圧迫されたり、墜落制止時に身体に食い込んだりする恐れがある。
(3)胸副ベルト・D環・尻当て等が誤った位置に装着されている場合は、正しい位置になるように装着し直す。

5 使用方法



(1) フックの取り付け位置は、接続したD環よりも出来るだけ高い位置で、万一墜落した場合、構造物や床面に衝突しない箇所を選ぶ。なおランヤードに記載されている落下距離に用いるフックの取付け位置高さやD環高さは右図による。落下距離とは、(c:ランヤード長さ)+{(b:D環高さ) − (a:フック取付高さ)}+(d1:ショックアブソーバの伸び)+(d2:ランヤード・ハーネスの伸び)
※d=d1+d2　※自由落下距離=c+(b-a)

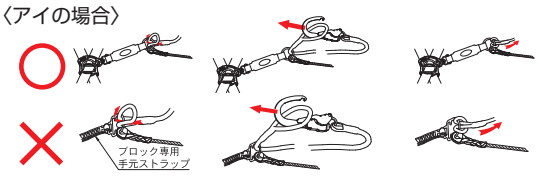


[落下距離説明表]

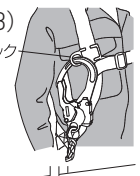
型番	c	b	a	d1	d2
フルハーネス型用ランヤード[ロープ式]	1.7m	1.45m	0.85m	0.9m	1.0m

(2)追加ロープ接続時は、以下の方法にて行なう。
[追加ロープ取付]
※追加ロープは専用カラビナを取り付けて接続しない
(操作方法) ⓐ 安全装置を前に押す。
ⓑ 外れ止め装置を下に押す。

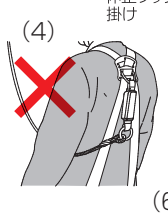
〈アイの場合〉



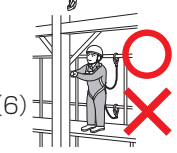
(3)ランヤードのフックを使用しない時は、休止フック掛けに掛けておく。



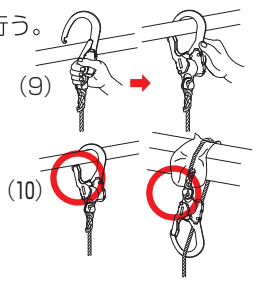
(4)ランヤードは脇/股に挟まないようにする。



(5)取付け構造物は、抜けたり外れたりするおそれがなく、墜落制止時の衝撃にも十分耐えられる堅固なものを選ぶ。
(6)フックの取付け位置は、D環より上のできるだけ高い位置で、墜落制止時に床面や構造物等に激突するおそれのない箇所に取り付ける。（落下距離についてはご使用ランヤード取扱説明書をご参照ください。）



(7)水平親綱と併用する場合は、ランヤードのフックを親綱に掛けて、作業及び移動を行う。
(8)安全ブロック（リトラクタ）、セイフスライダーと併用する場合は、それらのフックをD環もしくは丸リングに直接掛けて作業及び移動を行う。
(9)フックは安全装置と外れ止め装置を同時に押さえて開き、構造物に掛けて閉じた後、外れ止め装置が確実に閉まっているか確認する。
(10)フックは、墜落制止時にフック本体がねじれて変形したり、安全装置と外れ止め装置に荷重がかかったりしないように、右図のような正しい方法で取付け構造物に掛ける。

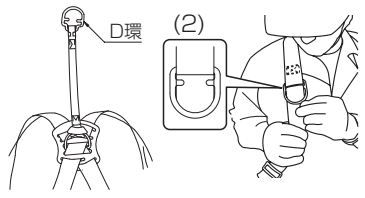


手元ストラップを取り付けて使用する場合

※手元ストラップは安全ブロック専用としてご使用ください。

STJ 仕様※
※STJはオプション単品を購入後、お客様で取付が可能です。

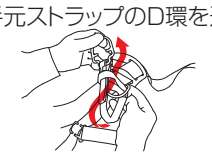
(1)安全ブロック(別売品)のフックを手元ストラップのD環に取り付けて使用する。
(2)手元ストラップのD環を使用しない時は肩ベルトに取り付けてください。
(3)使用時は肩ベルトから外した状態で使用してください。



■手元ストラップ［STJ］の取り付け方法

(1)手元ストラップのアイの部分をハーネスのバックD環に通す。

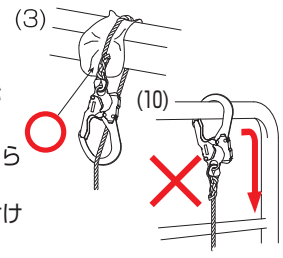
(2)バックD環に通した後、手元ストラップのアイの部分に、手元ストラップのD環を通す。



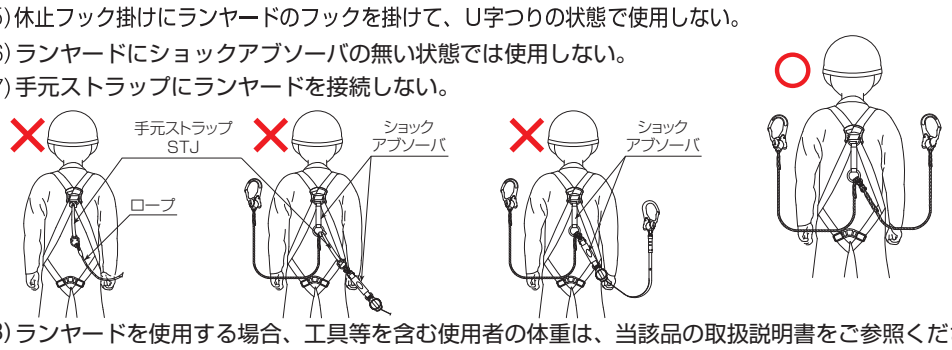
(3)手元ストラップを引き込み、アイ部分を絞り込み、取り付け完了。

⚠ 危険　誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、絶対にやめてください

(1)ランヤードのフックは、抜けたり外れたり、墜落制止時の衝撃で壊れたりするおそれのある構造物には取り付けない。
(2)使用前点検を必ず実施し、「8 点検・廃棄」記載の廃棄基準に該当する箇所があるハーネス・ランヤードは使用しない。
(3)ロープが切れるおそれがあるので墜落制止時に鋼材等の鋭い角にロープが当たらないようにし、やむをえない場合は布等を当てて直接触れないようにする。
(4)ハーネス装着後に、バックD環にランヤードを取り付ける時は、確実に取り付けられているか確認ができないので、一人では取り付けない。
(5)休止フック掛けにランヤードのフックを掛けて、U字つりの状態で使用しない。



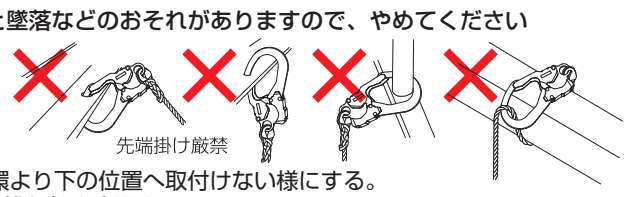
(6)ランヤードにショックアブソーバの無い状態では使用しない。
(7)手元ストラップにランヤードを接続しない。



(8)ランヤードを使用する場合、工具等を含む使用者の体重は、当該品の取扱説明書をご参照ください。
(9)ハーネス、ランヤードは改造しない。
(10)フックが手すりより滑り落ちる状況が発生する場合は、フックが破損する恐れがあるので使用しない。

⚠ 警告　誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

(1)右図のようなフックの掛け方は、墜落制止時に構造物から外れる危険性があるので絶対にしてはならない。



(2)ランヤードのフックは、可能な限りD環より下の位置へ取付けない様にする。
(取付前には、[2 使用条件]にて落下距離を必ず確認する。)
(3)溶接の火花・強い酸やアルカリ・油・その他、高温高熱の物体や化学薬品類が製品にかかったり触れたりしないようにする。
(4)金具の衝突・静電気による火花で爆発・引火する可能性がある場所や、ガスや粉塵の濃度が高い所で使用する場合は導電・防爆型ハーネスを使用する。その場合、静電服・静電靴を併用する。
(5)ロープは水分を含むと電気をよく通すので、特に雨の日などは感電に注意する。
(6)万一墜落した場合、振子状態になり構造物に激突する可能性のある箇所には、フックを取り付けない。
(7)直下の床面や物体との距離が短い場合は、墜落制止時に激突しないように、十分高い位置にフックを取り付ける。(落下距離についてはご使用ランヤード取扱説明書をご参照ください。)
(8)クレーンや安全ブロック(リトラクタ)のフック等移動するものにランヤードのフックを掛けない。
(9)ランヤードを結んだりくくりつけたりして使用しない。

(10)水平親綱を使用する場合は、１スパン(支柱と支柱の間)につき使用者は１名のみとする。2名以上で使用すると、墜落時に友引現象が起こるおそれがある。また、1本の親綱についても使用者は２名までとする。

(11)水平親綱を使用する場合は、支柱のところでフックを掛けかえるときに墜落しないよう注意する。

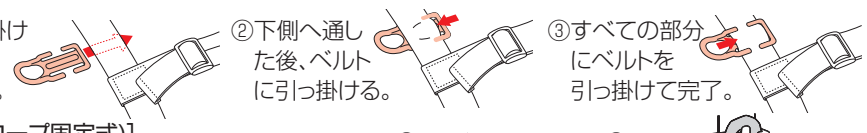
⚠ 注意　安全にお使いいただくためにお守りください

(1)ハーネス･ランヤードを引きずらない。　(2)ベルト･ロープをねじって使用しない。
(3)シノー等、工具類をベルトの裏側に直接差し込まない。
(4)ハーネス、ランヤードは同一メーカー(当社製品)のものを使用する。
(5)三つ打ちロープの場合、キンクやほどけが発生し、早期に廃棄基準に達する場合はがあるため、撚り方向と逆向きに力を加えたり、ねじれた状態で使用しないよう注意する。

6 休止フック掛けの取り付け方法

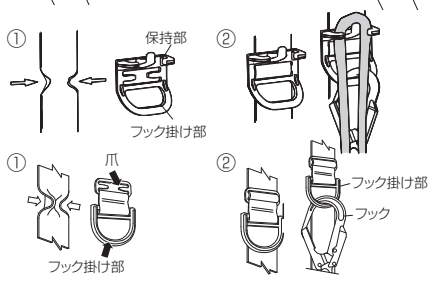
■休止フック掛けの取り付け方
[HPタイプ]

①休止フック掛けをベルトの下側へ通す。　②下側へ通した後、ベルトに引っ掛ける。　③すべての部分にベルトを引っ掛けて完了。



[HPRタイプ(ロープ固定式)]
①ベルトを絞り込み休止フック掛けの爪にベルトを通します。
②正しく取付けできているか確認してください。
爪が見えないこと。ベルトにシワがないこと。

[HDRタイプ]
①ベルトを絞り込み休止フック掛けの爪にベルトを通します。
②正しく取付けできているか確認してください。
爪が見えないこと。ベルトにシワがないこと。



7 保守・保管

(1)ベルト、ロープの汚れは、ぬるま湯または中性洗剤を使って洗い、陰干しする。
(2)ベルト、ロープに塗料等が付いた場合は、布等でふきとる。溶剤を使ってはならない。
(3)金具類が水等にぬれた場合は、乾いた布でよくふきとった後、さび止めの油をうすく塗る。
(4)金具類の可動部は定期的に注油する。砂・泥・モルタル等が付いている場合はよく掃除して取り除く。
(5)この製品は、直射日光や火気･放熱体･腐食性物質を避け、屋内の風通しがよく清潔な場所に保管する。
(6)子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないよう注意する。
(7)新品のままでも使用せずに長期間保管する場合は、必ず内装箱又は袋などに入れた状態で、かつ、上記の(5)・(6)の内容に特に気をつけて良好な状態で保管する。

8 点検・廃棄

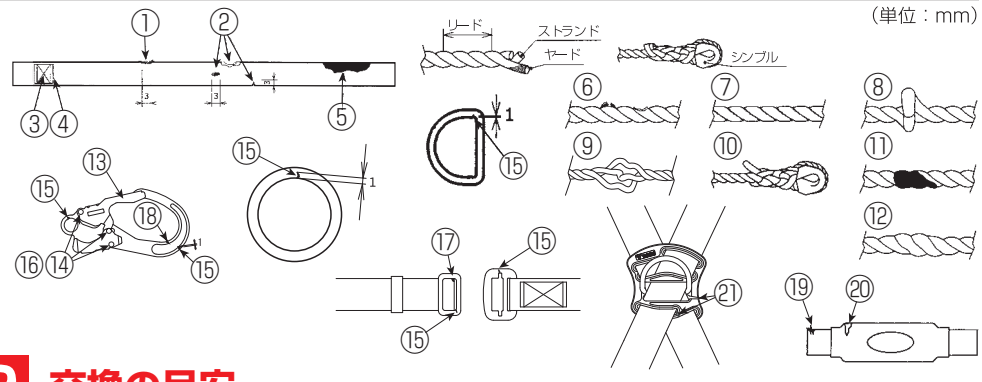
⚠ 警告　誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

(1)この製品は使用前に必ず点検を行い、廃棄基準に該当する箇所があれば廃棄して新しいものに取り替える。その際は必ず、使用開始年月ラベル([9 交換の目安]参照)に使用開始年月を記入する。
(2)少なくとも１ヶ月に一度は、<点検チェックリスト>に従ってより詳細に点検を行う。
(3)使用中に製品に異常があれば、ただちに使用を中止して再点検を行う。
(4)一度でも大きな衝撃を受けた製品は外観に変化がなくても廃棄する。

〈製品点検チェックリスト〉

点検部分	点　検　項　目	廃　棄　基　準	
ベルト	摩耗・擦り切れ	2mm以上あるもの	①
	切傷・焼損・溶融	2mm以上あるもの	②
	縫付け部分	ゆるみのあるもの	③
	縫い糸	切断されているもの／摩耗、擦り切れの激しいもの	④
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着したもの／塗料が付着したもの	⑤
ロープ	切傷・焼損・溶融	1リード内に7ヤーン以上あるもの	⑥
	摩耗	摩耗して棒状になっているもの	⑦
	キンク	キンク（よじれてコブ状になること）しているもの	⑧
	ほどけ	ロープがほどけているもの	⑨
	シンブル	脱落しているもの	
	さつま編み込み部分	抜けているもの／ゆるんでいるもの	⑩
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着したもの／塗料が付着し硬化したもの	⑪
	変形	形崩れしているもの／著しく縮んでいるもの	⑫
〈金具類〉フック D環 丸リング バックル 胸クリップ	変形	変形が目視でわかるもの	
		調節金具の締まり具合が悪いもの	
		フックの外れ止め装置・安全装置の作動の悪いもの	⑬
		リベットのかしめ部にガタ・変形のあるもの	⑭
	摩滅・傷	深さ1mmの傷があるもの／わずかでもき裂があるもの	⑮
		リベットのカシメ部が1／2以上摩滅しているもの	⑯
		ベルトの接合部が摩耗し、ベルトがゆるむもの	⑰
		フックのかぎ部の内側に少しでも傷のあるもの	⑱
	さび	全体にさびが発生しているもの	
	バネ	フック・クリップのバネが折損、脱落しているもの	
	薬品・塗料等の付着	可動部・バネ等に塗料が付着し、拭き取れないもの	
ショックアブソーバ	摩耗・擦り切れ 切傷・焼損・熔融	1mm以上あるもの	⑲
	擦り切れ・切傷 焼損・熔融	カバーが破けて内部のベルトが露出しているもの	⑳
その他	割れ・き裂	ベルト保持板、D環止め、ベルト止めに割れ、き裂があるもの	㉑

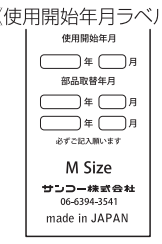
(単位：mm)



9 交換の目安

(1)使い方によっても異なるが、ハーネスは使用開始より3年を目安に新品と取り替える。
(2)[8 点検・廃棄]の内容に従って点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで、新品と取り替える。
※廃棄方法については、各自治体にお問い合わせください。
(3)「使用開始年月ラベル」に使用を開始した年月を必ず記入する。

《使用開始年月ラベル》



10 各部の強さ

項目	墜落制止用器具の規格	試験結果
肩・腿・胴ベルト	15kN以上	20kN以上
環類・丸リング	11.5kN以上	15kN以上
肩・腿バックル	6kN以上	8kN以上
	振動試験により、不意の外れや25mm以上の滑りなきこと	問題なし
フルハーネス	[順方向]15kN以上 [逆方向]10kN以上	[順方向]15kN以上 [逆方向]10kN以上
動的強度 [フルハーネス単体]	[順落下] トルソーを保持し、各部の破断なきこと [逆落下] トルソーを保持し、各部の破断なきこと 落下後にトルソー頭部が上方に復帰しない程にフルハーネスがずれないこと	[順落下] 問題なし [逆落下] 問題なし
衝撃吸収性 [フルハーネス型組み合わせ品] (タイプ1(※1))	□重さ100kgのトルソーを試験落下距離(※2)にて落下 ・トルソーを保持し、各部の著しい 破断なき事 ・衝撃値4kN以下 ・ショックアブソーバの伸び 1.2m以下 ・落下後のトルソーの背中D環 角度 45°以下 フロントD環 角度 50°以下	・破断なし ・平均衝撃値4kN以下 ・ショックアブソーバの伸び 1.2m以下 ・角度45°以下

※1：タイプ1とは、自由落下距離1.8mでの衝撃値が4kN以下のショックアブソーバ機能を備えたランヤードをいう
※2：試験落下距離とはランヤード長に追加落下距離 (D環の高さからフック取付高さを引いた距離)を加えた距離を指す

お客様相談窓口

製品の使用方法等についてご不明の点があれば、お買い上げの販売店、または下記までお問合せください。また、業務用途以外でお使いのお客様が、製品に起因する死亡や、重大な怪我に至る事故にあわれたときは、お手数ですが下記までご連絡ください。

サンコー株式会社　本 社　TEL:06(6394)3541(代表)　FAX:06(6395)0041

発売元
株式会社 MonotaRO（モノタロウ）
https://www.monotaro.com
〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183リベル3F
TEL 0120-443-509 FAX 0120-289-888

製造元
TITAN サンコー株式会社
本社:大阪府大阪市淀川区新高1-14-7 〒532-0033

(この製品は株式会社MonotaROの委託によりサンコー株式会社が製造した墜落制止用器具です)

2020.5- 5,000SW